健康増進計画にまちづくり施策を含有した「やわたスマートウェルネスシティ計画」

取組のあらまし

取組団体　京都府八幡市

取組内容　健康施策と都市施策が一体となった「やわたスマートウェルネスシティ計画」による「健幸まちづくり」を推進する取組

推進体制　６名（うち、２名は会計年度任用職員）（令和６年度）

予算等　54,330 千円（令和６年度）／70,600 千円（令和５年度）

1　京都府八幡市の概要

人口	6 万 9,219 人	令和６年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職員数	400 人	令和６年４月１日現在（一般行政部門）
総面積	24.35 ㎢	令和６年１月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表　1　京都府八幡市の位置図

出所：八幡市ホームページ

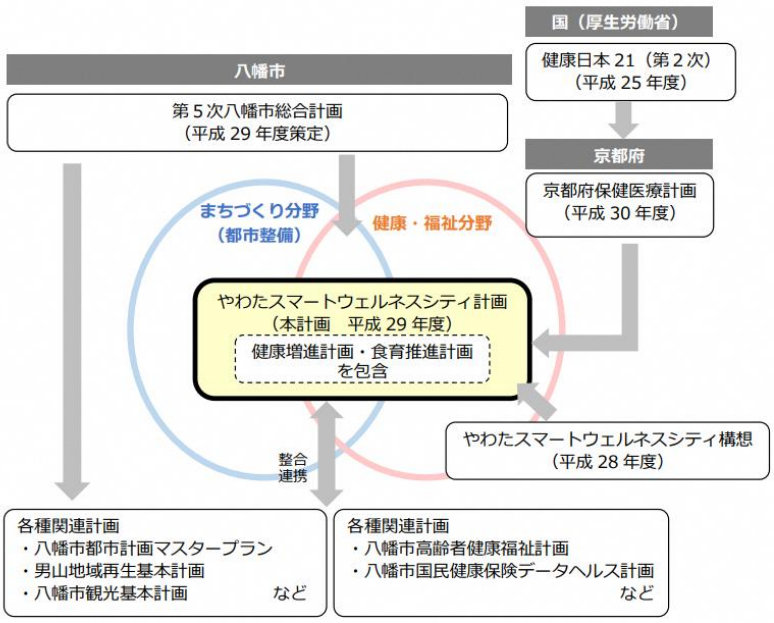
2　取組の背景・目的

京都府八幡市では、「やわたスマートウェルネスシティ計画」（以下、「本計画」という。）を平成 29 年度（2017 年度）に策定している。本計画は、「健幸なまちづくり」を柱に位置付け、健康施策と都市施策が一体となった計画であるという点に特色がある。

同市が本計画を策定するに至った背景のひとつに、高齢化の進展への対応という共通のテーマにおける健康施策部門と都市施策部門における課題意識が存在した点が挙げられる。健康施策部門では、社会保障制度の持続性における危機意識があった。平成 29 年度（2017 年度）の八幡市の一般会計予算における民生費の割合は 47.9%を占めていた[1]。今後さらに高齢化率が高まる中で社会保障給付費等の増大への対応に課題があった。都市施策部門では、高齢化に伴う古い団地等の既存インフラの再生やバス路線の見直し等に課題意識を持っていた。

こうした背景から同市では、従来の「人に対する健康づくり」に加えて、「まちの健康づくり」の視点を加えて政策を推進する「健幸まちづくり＝スマートウェルネスシティ」の研究を進めてきた。そして、平成 28 年度（2016 年度）に同市はスマートウェルネスシティを推進していくための基本的な方向性を示した「やわたスマートウェルネスシティ構想」を策定した。その翌年の平成 29 年度（2017 年度）には、上位計画である「第５次八幡市総合計画」（平成 29 年度（2017 年度）策定） や各種関連計画と整合性を図り、さまざまな側面から“健幸”を捉えたスマートウェルネスシティの推進に向けた取組を定めた本計画が策定されるに至った。

図表 ２　「やわたスマートウェルネスシティ計画」の位置付け



出所：八幡市「スマートウェルネスシティ計画改訂版」

[1] 八幡市「平成 29 年度　財政状況資料集」

３　取組内容

本計画では、基本目標を３つ掲げている。第一に、市民ひとりひとりが便利さだけを求めすぎないライフスタイルへの転換を目指す、基本目標１「人の健幸づくり」である。第二に、自然や歴史文化を活かした歩きたくなるまちへの転換を目指す、基本目標２「まちの健幸づくり」である。そして、第三に、効果的施策の展開をするための、基本目標３「健幸づくり体制の構築」である。八幡市では、上記の基本目標に紐づいた推進施策を展開している。

以下に、基本目標１「人の健幸づくり」、基本目標２「まちの健幸づくり」における推進施策について紹介する。

(1) 基本目標１「人の健幸づくり」に紐づく推進施策

基本目標１「人の健幸づくり」では、目指す姿を「自分自身の健康に関心を持って行動できる、健康意識の高い市民が育つまち」、「健康に関心がない人にも、健康のための情報が行き渡るまち」と設定している。それに基づき、段階別（乳幼児期、少年期、青年期、壮年前期、壮年後期、高齢期の６区分）の各ライフステージにおける健康づくり活動の推進や、官民連携による健幸づくり運動教室の開催やウォーキングイベントの開催、成果連動型インセンティブ事業「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」等を実施している。

「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」では、参加者に専用の活動量計を配布し、ネットワーク等を通じて定期的に歩数等のデータを送信してもらうことで、参加者の活動状況を確認し、歩いた歩数や体組成の測定結果等の成果に応じてポイントを付与している。令和６年度は、本プロジェクトの参加者に最大 4,000 円相当のポイント（Quo カード、図書カード他）を付与している。気軽に楽しみながら参加できる仕組みが、市民に広く普及し令和６年（2024 年）12 月時点で、約 4,900 人が参加している。

本プロジェクトは、ＩＣＴの活用によって、歩数のデータや医療費・介護給付費等のデータを分析し、その結果を基に、事業評価や事業実施方法の見直しに役立てている点に 特色がある。事業の成果として、当プロジェクトの参加者の歩数が、参加前と比較して３か月後には 1 日あたり、約 2,000 歩以上増加していることなどが明らかになった。

また、参加者の令和４年度（2022 年度）分、医療費・介護給付費 を約２億 7,000 万円抑制できたことが、事業分析により明らかになるなど、事業全体で高い成果を上げている。

図表 ３　やわた未来いきいき健幸プロジェクトの概要

出所：八幡市「スマートウェルネスシティ計画改訂版」

（2） 基本目標２「まちの健幸づくり」に紐づく推進施策

基本目標２「まちの健幸づくり」では、目指す姿を「やわたの自然や歴史文化を感じ、外出してみたくなるまち」、「まちのなかに交流拠点があり、いつでも誰かに会えるまち」、「くるまに頼りすぎなくても快適便利に暮らせるまち」、「ライフステージとライフスタイルに応じた多様な住まい方ができ、いつまでも住んでいたいと思えるまち」と設定している。それに基づき、市内の自然や歴史文化等の地域資源を活用し、歩きたくなる・外出したくなるまちを形成するためのウェルネス軸の形成、駅前における賑わい交流施設の整備の検討、公共交通・自転車の活用環境の充実等のまちづくりにおけるソフト事業・ハード事業の両面の取組を展開している。

図表 ４　ウェルネス軸のイメージ

出所：八幡市「スマートウェルネスシティ計画改訂版」

４　成果・課題

（1） 本取組の成果

本取組における成果として、部門連携による総合施策型の健幸づくりの推進体制を構築している点が挙げられる。

高齢化の進展への対応という共通課題の解決に向けて、健康施策部門と都市施策部門が連携しながら、従来型の「人の健幸づくり」に、歩行環境の整備や公共交通の充実等の「まちの健幸づくり」の観点を加えた総合的な「健幸まちづくり」に向けた推進体制を構築している。

総合計画とも連動した、「スマートウェルネスシティ」の推進を図る本計画の存在により、市役所内でも、本計画を意識して、各種事業への取組が推進されている。

また、本計画の存在により「スマートウェルネス」の取組に力を入れている自治体という認識が民間事業者にも周知され、事業者からの政策提案や、実証事業の実施地域への選定など、スマートウェルネスの実現に向けた取組を、市だけでなく、民間事業者もかかわりながら推進することができるようになった。

（2） 今後の課題や展望

今後、政策部門を始めとする庁内の他部署との連携をさらに強化することが、課題として存在する。また、やわたスマートウェルネスシティ計画では食育基本法に基づく、食育推進計画も包含しており、「食」も重要なテーマとなっていることから、現状取組が進んでいる「運動」とともに、取組の一層の推進を図る方向性を有している。

また、八幡市では市内を走る京阪電車の駅前の再整備計画を有しているほか、日本住宅公団（現在の都市再生機構）が中心となって整備した男山地域での、都市再生機構と近隣にある関西大学との連携事業、市全域における公共交通の再編の議論等、各種事業が行われることから、それらに「健幸」の要素が取り入れられたものとなるよう、連携を図っていく方針である。

関連・参考資料

八幡市「「やわたスマートウェルネスシティ計画」について」
https://www.city.yawata.kyoto.jp/0000005003.html
国土交通省「健康まちづくりの事例集（令和５年５月）」
https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001616190.pdf